

〔萬葉集二十〕〔喻族歌一首并短歌〕○中

須賣呂伎能安麻能日繼等〔都藝氏久流伎美能御代御代加久佐波奴安加吉許己呂乎須賣良弊爾〕
伎波米都久之氏〕○中

右○中 家持作此歌也

〔延喜式八祝詞〕大殿祭

親王諸王諸臣百官人等乎己乖乖不令在〔邪意穢心無久宮進〕進宮勤〕勤〕之〕米
聞直坐氏平〕久〕氣〕安〕久〕氣〕令社奉坐〕爾依氏大宮賣命止御名乎稱辭竟奉〕久〕白〕

〔日本書紀二代〕時高皇產靈尊勅大物主神汝若以國神爲妻吾猶謂汝有〕疏〕心〕故今以吾女三穗津姬
配汝爲妻〕○下

〔日本書紀一代〕一書曰〕○中 雖然日神恩親之意不慍不恨皆以〕平〕心〕容〕焉〕

〔古今和歌集十四〕題しらす

いで人は事のみぞよき月草のうつし心は色ことにして

よみ人しらす

〔類聚名物考心情一〕うつし心 現心

うつ、ご、ろの誤歟、または物にうつる心なく、ひたぶるにその事になづみたるをいふ歟、また所によりて異なり、

〔徒然草上〕下部に酒のまする事は、心すべき事也〕○中 具覺房手をすりて、うつし心なく酔たる者に候、まげてゆるし給はらんといひければ〕○下

〔書言字考節用集九言辭〕他心〕○日本 異情〕○万葉

〔古今和歌集二十東歌〕みちのくうた

君ををきてあだし心をわがもたば末の松山浪もこえなん